

令和4年度

「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業・学校元気アップ地域本部事業
合同実践報告会

大阪市では小学校区における「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業のほか、中学校区においても学校・家庭・地域の組織的な連携のもと、地域社会全体で子どもたちを育てる「学校元気アップ地域本部事業」を実施しています。両事業の推進に向け、事業関係者及び事業に関心のある方が、事例などを通して両事業の成果と課題を共有し、教育コミュニティづくりと学校教育支援活動についてともに考え、交流する機会として合同実践報告会を開催しています。令和4年度は2年ぶりに対面での実践報告会を開催できました。

日時：令和5年2月27日（月）14：00～16：00

会場：大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

テーマ：「地域と学校の連携」

内容：基調講演／一般社団法人こもれび代表理事 水流添 綾

事例報告／東淡路小学校・柴島中学校区はぐくみネット（東淀川区）

／南港北中学校区学校元気アップ地域本部（住之江区）

意見交流会

【基調講演】

「子どもの生きづらさに気づく ～身近な大人に求められること～」と題して、一般社団法人こもれび代表理事の水流添綾さんよりご講演をいただきました。

水流添さんは“ひとりぼっちをつくらない”を理念に、一般社団法人こもれびを設立され、障がい児福祉サービスを柱とし、フリースクールの運営やケア付き子ども食堂など、子どもたちの居場所づくりの活動をされています。また関西大学非常勤講師、大阪府下のスクールソーシャルワーカーとしても活動され、子どもの貧困・ヤングケアラー・発達課題など、子どもの見えにくい生きづらさにどう気づき、どう寄り添えばいいのか、地域の大人として求められる視点について話されました。

子どもの生きづらさの背景として挙げられたのは、まず「子どもの貧困」でした。子どもの貧困については最近よく耳にするようになりましたが、どのような状況を子どもの貧困というのか、またその状況に対して大人のとらえ方が様々であることなどを具体的に説明されました。そして、子どもの貧困の定義を、「子どもが経済的困難と社会生活に必要なものの欠乏状態におかれ、発達の初期段階における様々な機会が奪われた結果、その後の人生全体に影響を与えるほどの多くの不利を負ってしまうこと」とされ、結果として基礎学力を身につけることができなかつたり、健康な心身の発達成長が阻害され、人と人とのつながりを希薄にしてしまつたりするなどが考えられるということでした。また成人期への影響としては、ひきこもりや犯罪行為、就労意欲低下、虐待リスクなどの可能性が増大することなどが考えられ、ひいては社会全体の経済的損失にもつながっていくということでした。



子どもの生きづらさの要因としては、その他に児童虐待や発達障がい、ヤングケアラーなどを挙げられ、それぞれについて具体的な事例をもとにわかりやすくお話いただきました。どの課題においても周囲の大人の正しい理解や対応が必要で、子どもの SOS をキャッチする大人の存在が重要だということでした。子どもの権利条約や児童福祉法、こども基本法などにも触れながら、子どもたちにとって身近な地域の大人が、地域子どもたちを育む上で大切なことは、現代社会の課題を意識して、見えないものを見ようとするアンテナを張ることであり、大人同士が顔の見える関係性（ネットワーク）を作り、多様な立場の大人がつながりあい、役割を分担しあって、子どもたちを育む社会を作っていくことである、と結ばれました。

【事例報告】小学校区教育協議会—はぐくみネット—

東淡路小・柴島中学校区はぐくみネットから、「やってて良かった！はぐくみネット ～子どもたちと考える 東淡路・柴島の町づくり～」と題して、6年生の国語科教材「町の未来を描こう」をもとに、東淡路・柴島地域の町の未来を考える学習活動を展開したい、という担任教員の思いを受けて、児童の学習支援を行った報告がありました。当時の学級担任も発表に参加されました。

東淡路小学校は、平成14年度に大阪市がはぐくみネット事業を立ち上げた時のモデル校の1校で、手探りの状況からスタートし、工夫と実行力を積み重ねて現在の活動に至っているということでした。

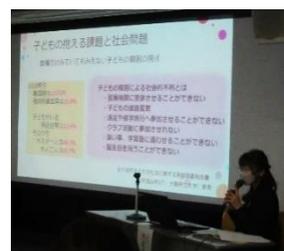
児童が自身の住む町について知るために、まず東淡路・柴島地域活動協議会から資料を提供していただくことや実際にお話を聞くことが企画され、はぐくみネットコーディネーターが協力要請のつなぎ役をしました。はぐくみネットと地域活動協議会の広報誌を資料として授業が始まり、地域活動協



議会役員が授業に参加して地域での活動についての質問に答えたり、地域課題についての悩みなどの相談を受けたりしました。そうした学習活動を積み重ねて、児童の視点でまとめた地域の状況と課題、町の未来についての提案を、授業参観の日にプレゼンテーションしました。当日は保護者だけでなく、地域活動協議会役員・東淡路連合町会長・地域の福祉施設の職員さんたちも参観し、児童のプレゼンテーションの内容に大変感銘を受けられました。そして子どもたちが地域の祭りをとても楽しみにしていたことや、車いすの児童でも参加しやすい出店の工夫などの提案が伝わり、コロナ禍でためらわれていた地域の祭りの開催を、町会長さんたちの熱い気持ちが後押しして、開催方法の工夫によって実施することができました。まさに学校と地域の協働の成果といえ、双方にとって有意義な活動となりました。

こうした学校支援活動が実現した経過については、学級担任が子どもたちに「日ごろから地域の人には、何かとみんなの学習支援をしてもらって、本当にお世話になっている。何かお返しできることはないかな。国語の『町の未来を描こう』を元に、校区の町の未来について、みんなで考えていくのはどうかな」と提案したことからはじまった、ということでした。以前から同校の教員のニーズを知って、それを支援する人や方法をコーディネートする組織（東淡路小学校・柴島中学校区教育協議会）が機能していたこと、はぐくみネットコーディネーターと教員が直接相談し

こうした学校支援活動が実現した経過については、学級担任が子どもたちに「日ごろから地域の人には、何かとみんなの学習支援をしてもらって、本当にお世話になっている。何かお返しできることはないかな。国語の『町の未来を描こう』を元に、校区の町の未来について、みんなで考えていくのはどうかな」と提案したことからはじまった、ということでした。以前から同校の教員のニーズを知って、それを支援する人や方法をコーディネートする組織（東淡路小学校・柴島中学校区教育協議会）が機能していたこと、はぐくみネットコーディネーターと教員が直接相談し

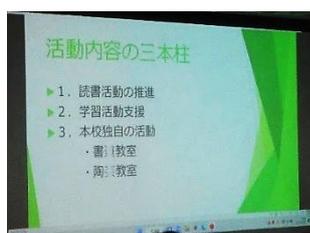


あえる環境が整っていたことなど、地域が学校を支援していく上で大切にしたい点がよくわかる事例の報告でした。

【事例報告】学校元気アップ地域本部

南港北中学校区学校元気アップ事業本部からは「地域の力を掘りおこす！！」と題して報告をいただきました。活動内容は、読書活動の推進・学習活動支援・学校独自の活動（書道教室・陶芸教室）です。

1 読書活動の推進



図書室ボランティアとして、開館・整備・蔵書点検・購入図書点検・新着本周知などの作業を担い、ボランティアの方々と教員や生徒が共同して点検作業を行うなど、生徒が親しみの持てる学校図書館の運営に尽力されています。読書推進活動として貸出数の多い生徒を「読書王」として表彰するイベントでは、卒業生のデザインしたオリジナルキャラクター『白いの』の葉が副賞として贈られますが、この葉が大変人気で、生徒の読書意欲の喚起に役立っているそうです。

2 学習活動支援

放課後学習支援をほぼ毎日実施し、定期テスト前や夏休みの学習会も実施されています。また英検や漢検の実施準備や当日の運営、答案発送などの作業を補助し、受検前のスピーキング練習などは教員の協力も得て行っておられます。

3 独自の活動・・・書道教室・陶芸教室

書道教室は毎月1回約2時間、夏休みは3日間実施し、元気アップ通信で参加者を募集します。参加生徒は、秋の文化祭への出品や全国書画展覧会への出品などを目指して練習に励みます。教室の指導には、地域の方がボランティアとして参加しています。陶芸教室は夏休みに開催し、生徒とともに教職員も参加し、作陶・高台削り・釉薬かけなどの工程を経て、出来上がった作品を文化発表会で展示しているそうです。始める前の土の準備や窯の使い方など、陶芸には専門的な知識や技術が要りますが、地域の「陶芸の会」の皆さんがボランティアとして協力され、円滑に進めることができているということでした。

以上のような活動を実施していくには、協力してくださるボランティアを見つけることが肝心で、PTAのOBはもちろん、地域の大学生、地域サークルのメンバー、病院の待合で知り合った人など、あらゆる出合いや機会をとらえて、声かけをされたそうです。協力しているボランティアさんは「生徒のうれしそうな笑顔が見られる」「本を借りてくれてうれしい」といった感想を持たれ、生徒も地域の方々の励ましを受けて様々な体験活動ができています。地域にアンテナを張って、地道に、勇気を出してボランティアを募集された成果が、学校元気アップ地域本部事業の多彩な活動を支えている事例報告でした。

【意見交流会】

前後の席同士、5～6名程度の少人数で意見交流会を行いました。事例報告の発表者も分かれて各グループに入り、互いの活動の紹介や課題などについて意見交換しました。各グループで話し合った内容については、最後にグループ代表が紹介しました。コロナ禍の間は対面での研修の機会が少なく、こうした交流の場面も久しぶりで、短時間ながら活発な意見交流の様子が見受けられ、充実した時間を持つことができました。

【参加された方々の感想】 アンケートより抜粋

- ・ヤングケアラーのことがわかりやすかった。
- ・「子どもたちの生きづらさに気づく」の内容がとてもわかりやすく、参考になった。
- ・両校区ともすばらしい発表で感動した。
- ・人材を集めるご苦労も楽しんでされている様子で、とても嬉しく思った。
- ・やはり実際の活動のお話を聞いたのが良かった。楽しく参加できた。
- ・ひさびさに対面での研修に参加できて、やはり元気をもらえた。同じような悩みを持ちながら、頑張っている仲間がいるとわかることは大切だと思う。
- ・今まで活動してきている方向性で合っていたんだ！と自信が持てた。
- ・学校の先生との距離感があるけれど、歩み寄りが大切だと思い、地域の協力もあるので、学校もお互いに協力できたらと思った。
- ・中学校の取組を知ることができた。
- ・はぐみネットと学校元気アップや地域活動協議会との協力があったの活動がうらやましくもあり、そういった地域ぐるみの活動に広げていく必要があるなあと感じた。
- ・地域の子どもたちが健やかに成長することが地域の幸福につながる。
- ・生徒の参加について少し悩みがあるので、そのような事例があれば聞きたい。
- ・最後のグループ交流で、はぐみネット・学校元気アップに関わる方々のお話を聞いたのが良かった。特に「人生100年、これからも！」というところが印象的だった。
- ・学校とPTA、そして地域の3者の連携が大切だと改めて思った。

